

「つもり」で終わらせないために

中 二

最近、ニュースなどで見かける機会が増え、世間への認知度も高まってきている「LGBTQ」という言葉。今や十三人に一人いるのではないかととも言われているそうだ。LGBTQについて知っているか聞けば、きっとほとんどの人は首を縦に振るだろう。そんなLGBTQだが、みなさんはただ「理解したつもり」になってはいないだろうか。

私には、男性の身体で生まれたが性自認は女性である、いわゆるトランスジェンダーの友達がいる。その友達は、学校では男性用の制服で過ごしているが、休日になるとレディース服を着てウィッグを着け、「女性」として外へと出かけている。仲がよくて信頼している人には自身がトランスジェンダーであることを告白していて、女性として出かけるときのために買った服などの写真をメールで送ることもあったそうだ。しかし、ここで一つ事件が起きてしまう。その写真がクラス

のメールのグループ上で出回ってしまったらしい。友達は、信頼していた人の中の誰かに写真を拡散されるという、裏切るようなまねをされたこと、そして、後日学校でトランスジェンダーであることをからかってくる人がいたことに大きなショックを受けたと私に打ち明けてくれた。

私は今まで、LGBTQの方々への差別についてニュースで見ても、心のどこかでそんなこと身近には有り得ない、遠い存在だろうと感じていた。小学生のころに性的マイノリティーの方々への差別問題について授業で教えてもらったことがあるし、それについての手紙を配布されたことだからある。これほど問題視されていることなのだから、身近で起きることは絶対にならないだろうと信じていた。しかし、実際は違ったのである。LGBTQの方々への差別が問題になっていることは、きっと写真を拡散した人やトランスジェンダーである友達のことをからかった人たちも知っていただろう。それにもかかわらず、いざ自分や周りとは違うところのある人が出てくると、それをみんなが面白がるかと思っただけで、身近にそういつた人がいると、否定的なことを感じたり、思っ

しまったりすることは仕方のないことなのかもしれない。どうしても認められない人だっていると思う。しかし、否定的なことを思ったとしても、それを行動に移してしまったり、言葉に発してしまったりするのは違うのではないだろうか。

仲のよい友達がこんなにも辛い思いをしていたのだと知り、性的マイノリティーをめぐる差別というものは、私が思っていたよりもずっと身近に存在していたことに気が付いた。そして、自分のLGBTQへの知識は浅かったのだと身をもって感じた。正しくは、知識はあっても「それだけ」だったのである。私はこの一件から、LGBTQについて本当の意味で理解するためには、知識を得た後がいちばん重要であると考えようになった。冒頭でも触れたとおり、今やLGBTQは十三人に一人いると言われている。性的マイノリティーの方々への差別は決して遠い話ではなく、自分の周りで起きる可能性だって十分にあるのだ。その差別の矛先が大切な人へ向くことがあるかもしれないと考えてみてほしい。そうすることで考えを深めることができ、きっとLGBTQについて本当の意味で「理解する」ことができるのでは

ないだろうか。

私はニュースやSNSでLGBTQの人を見て「理解したつもり」の状態になっていた自分を恥ずかしく思った。それと同時に、トランスジェンダーの友達のように性的マイノリティーをめぐる差別などを受けて苦しんでいる人の助けになりたいと心から感じた。これからも差別で苦しむ人が周りに現れたなら、自分にとって正しいと思える選択をして、後悔のないようにしたい。世間への性的マイノリティーへの認知度が高まってきている今だからこそ、私と同じように「つもり」で終わらせてしまっている人も多いのではないだろうか。LGBTQに限らずとも、差別により苦しんでいる人は今もたくさんいる。当たり前のように話だが、全てが自分と同じ人間など存在せず、みんなそれぞれ少しずつ違うところがあるのだ。その違うところが見えやすいからという理由で差別やいじめを受ける人が、一人でも減ってほしい。私はそう強く願っている。